

No.47



このコーナーでは、JVIA会員企業のトップの方に、PRポイントとして「わが社のいちおし」をお聞きし、その企業らしさの秘密に迫ります。今回は1980年（昭和55年）に山口県小野田市（現山陽小野田市）で太陽熱温水器、家庭用風呂釜、給湯器などの住宅関連機器メーカーとしてスタートした長州産業株式会社です。現在、太陽光発電システムなどで国内有数の取り扱い企業へ成長するとともに、設立5年目を期して大手半導体製造装置メーカーと業務提携し半導体関連装置から真空装置、液晶パネル製造装置などのハイテク機器分野へ進出。最近是有機エレクトロルミネッセンス(EL)パネル製造装置などでも先端的な動きを見せています。

長州産業株式会社

■代表取締役社長 岡本 要

【経歴】

1957年（昭和32年）3月 徳佐高校卒業後、山口県農協講習所を経て一時地元農協勤務
 1961年（昭和36年）9月 長府製作所入社
 1970年（昭和45年）2月 同社取締役総務部長
 1974年（昭和49年）3月 同社取締役製造部長を兼務
 1980年（昭和55年）9月 同社取締役退任
 10月 長州産業株式会社設立 代表取締役社長就任
 1989年（平成元年）4月 シーアイシートライ株式会社設立 代表取締役社長就任

趣 味：ジョギング、ゴルフ、読書

座右の銘：われ以外皆わが師なり



■社是

真空技術とメカトロ技術の結集によって、21世紀の技術維新を創造します。

■経営理念

- ・目指すは「世界舞台」。技術の独創性で、グローバルに事業を展開していきます。
- ・先端技術分野への積極的なアプローチにより、真の研究開発型メーカーを目指します。
- ・快適な暮らしをテーマに、今、住宅機器メーカーから、ライフスタイル提案型メーカーへの飛躍を図ります。
- ・ハイテク技術と住宅関連技術の融合により、21世紀の生活環境やエネルギー問題を考えます。
- ・技術・環境・人材面でのさらなる充実を図り、オンリーワンテクノロジー企業を目指します。

■事業概要

長州産業は太陽熱温水器を皮切りに住宅関連機器の製造・販売からスタートしたが、設立5年目に本社のある山口県小野田市（現山陽小野田市）の隣町へ山口日本電気が進出。これをきっかけにその関連業務を手掛けることで「ハイテク技術の吸収」に全力を傾注することとなり、1985年（昭和60年）には日電アネルバエンジニアリングと業務提携し、また山口日本電気の協力工場に指定されている。この半導体関連への参入にあたり、まず取り組んだのが人材の育成。当時60人いた従業員の中から精鋭6人を選んで1年間、日電アネルバへ派遣し、最先端の半導体製造装置の技術習得を図っている。こうした努力が実って住宅関連機器とハイテク分野という2本柱を持つに至った。半導体製造装置の製造、メンテナンス業務を通じて獲得した機械、電気、電子、ソフトウェアなどの技術、ノウハウはその後のFA、メカトロ分野での事業拡大の基礎となり、住宅関連機器分野にも活かされている。長州産業が手掛けた機器はアジア地域など各国で活躍。半導体工場の立地が多い中国では、現地企業と合併で洗浄再生業務を展開するなど海外企業との関係も緊密だ。



本社

長州産業株式会社

所在地

〒757-8511 山口県山陽小野田市新山野井3740

TEL：0836-71-1110

FAX：0836-71-1202

- 従業員数 約550人
- 資本金 3億6,000万円
- 売上高 205億円（2009年3月期）

内訳：ホームエコエネルギーシステム事業
 60%、真空メカトロ機器事業30%、精密
 洗浄（成膜装置部品の洗浄・溶射処理）
 事業10%

●主な事業所

本社工場（山口県山陽小野田市）、小野田工場（同）、広島工場（広島県三原市）、九州工場（福岡県宮若市）、東京支店、大阪支店、茨城事業所、仙台・長野・高松・鹿児島各営業所。

住宅関連機器からスタート

私は高校を卒業した後、農協勤めを経て1961年(昭和36年)に長府製作所に入社しました。そして1979年(昭和54年)には取締役総務部長兼製造部長として、同社の株式上場を見届け、翌年に退社、現在の長州産業を設立しました。地元先の先駆者で近代日本を切り開いた維新の志士たちにあやかろうと、社名には「長州」をつけました。事業もそれまでの経験を生かす形で、太陽熱温水器や石油給湯器(ボイラ)など住宅関連機器の製造、販売から始めました。

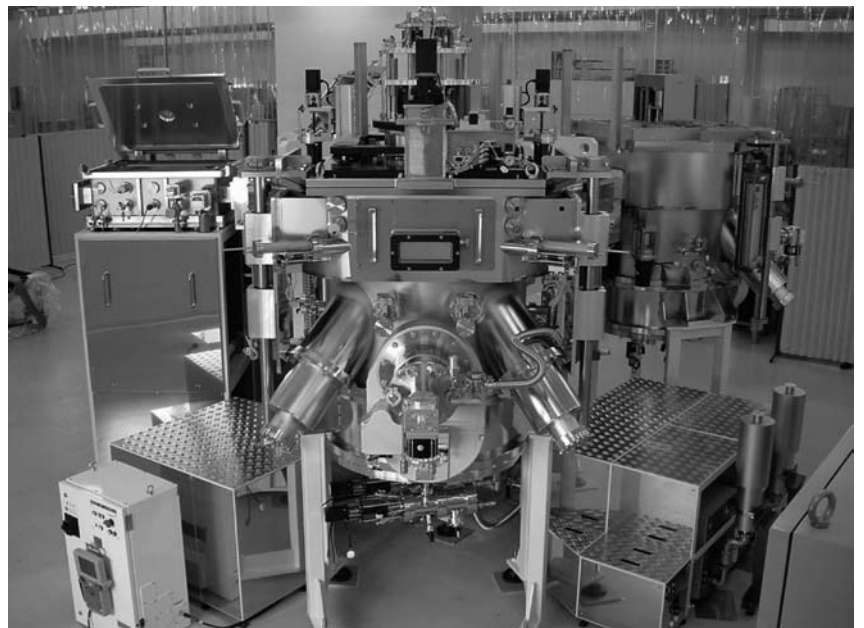
独自の太陽光発電システム製造、販売を計画

太陽光発電システムの販売は11年前から手掛けています。とくに三洋電機からOEM(相手先ブランドによる生産)供給を受けている発電効率の高い単結晶シリコンタイプでシェアを伸ばしてきたが、2009年度から国の住宅用太陽光発電システムへの補助制度が再スタートしたことを受けて、近々より低コストで大量生産が可能な独自単結晶シリコンタイプのものを売り出します。

本社工場にまだ余裕があるため、単結晶シリコンセルはインゴット生産から行い、燃料店や工務店ルートを中心として認定施工要員の育成も始めています。年内には全国約300店、約1,500人の認定施工要員を擁する販売施工ネットをつくり上げたい。これにより製・販、さらに施工、メンテナンスまで一貫した体制を整備し、ブランド力の弱さを乗り越えて大手メーカーに対抗していきたい。

「エコキュート」なども手がける

ほかに二酸化炭素冷媒を使ったヒートポンプ式給湯器「エコキュート」や電磁調理器(IHクッキングヒーター)なども手掛けており、これらのホームエコエネルギー分野が、今も当社売上高の約60%を占めています。



有機ELパネル製造装置

半導体関連装置などハイテク分野へ進出

住宅関連分野で長州産業を立ち上げたが、ホームオートメーション時代に入って何とかマイコンなどハイテク分野への手がかりがほしいと思っていました。そんなときに半導体分野でも先端に行く日本電気の子会社(山口日本電気)が近くに工場進出することを聞き、是非このチャンスを生かしたいと思いアプローチしました。

その結果半導体製造装置のメンテナンスを担当できることになり、技術習得のため日電アネルバに虎の子の社員6人を派遣し、1985年(昭和60年)には日電アネルバエンジニアリングとの業務提携、さらに山口日本電気の協力工場の指定を受けるまでこぎつけました。

半導体製造装置のメンテからハイテク機器手がける

全従業員が50~60人の当時、長期にわたって優秀な社員を社外に出すのは大変だったが、半導体、ICといえば産業のコメであり将来性がある。半導体製造装置のメンテを手がけることで組み立てや検査、部品加工、図面製作などでもそれぞれ先端をゆく技術に触れ、学んでいけるはずだと考えました。そしてそれは半導体製造装置の心臓部である真空装置の製造技術へつながることになり、超精密加工技術などをベースにしたFA・メカトロ機器、液晶パネ



インライン蒸着装置

ル関連装置や研究開発用の有機EL蒸着装置、スパッタリング装置、多機能蒸着装置といったハイテク分野へ手を広げていききっかけにもなっています。

「おまかせくん」を自ら売りに

この間には、いわゆるハイテク機器と呼ばれるものだけでなく、いろいろ変わったものもやりました。1987年(昭和62年)に発表したノリ乾燥機用温湿度コントローラ「おまかせくん」もその一つ。温・湿度センサとマイコンを使って石油給湯器の燃焼を調節する装置で乾燥むらがなく、魚やシイタケ、お茶など食品加工に応用でき、ボイラも一緒に売れる。ノリ養殖の一大産地で

ある有明(佐賀県)などに出向いてトップセールスに努めました。産業用ロボットもやりましたが、まずモータをサーボモータ化した制御装置を考え、地元の大手企業に提案したこともあります。遠赤外線を使った家庭用サウナなんかも、自ら解説しながら売りに回りました。

おかげで独立後4年目から黒字化を達成し、以後、赤字になったことはありません。

新本社工場を整備

ハイテク分野へ進出するにあたっては、設備投資も思い切っ行ってきました。1990年代に入って増資のたびに半導体製造装

置試験研究棟、精密機械工場棟、メカトロ機器工場などを新設してきました。2007年(平成19年)には、2000年(平成12年)から操業開始している山口県山陽町(現山陽小野田市)の真空・メカトロ機器工場を、本社工場と改称。新たにハイテク機器・環境機器工場も操業を始めています。

3棟そろった本社工場内にはクラス10,000のレベルクリーンルームや精密加工・組み立て設備、設計ルームなどを備えており、先ほど少し触れました、独自の単結晶シリコン太陽光発電システムの生産などもここで手がけようとしています。



プリント基板ダイシングライン

真空装置技術を支える洗浄・再生業務

あと広島工場、九州工場で行っている洗浄・再生業務というのがあります。これは半導体製造装置や電子部品製造装置に組み込まれているシールド部品、内部治具などを化学的あるいはプラスト、溶射、超音波といったウエット、ドライの各種プロセスで洗浄、再生しています。真空ポンプのオーバーホールサービスなども行っており、真空装置技術を根底から支えているものと自負しています。

取材を終えて

山口県山陽小野田市の本社工場を訪れてまず工場の威容に驚いた。3棟の建屋が建つこの10万m²の土地以外に、隣接して5万m²の用地も残しているという。太陽熱温水器、ボイラといった、いわばローテク分野から産業のコメ、時代のコメとなった半導体に着目。さらに真空機器からフラットパネルディスプレイへと先端を行くハイテク技術へ次々挑戦してきた。さらに今回は、景気的大幅後退を打破する切り札として世界が注目する太陽光発電システムでも、独自ブランドのシェアアップに向けて果敢に動き始めている。まさに地元が生んだ、明治維新の志士たちにも負けないスケールの大きさである。



岡本 要社長



真空・メカトロ機器事業部
取締役
真空・メカトロ機器事業部長
業務部長
関口 寛之



CVD装置



サーモボールセル「低温用高性能蒸着源」



大型ガラス基板搬送装置